

2025年度 IPBESシンポジウム
「ネイチャーポジティブ社会の実現に向けたネクサス・アプローチ：
～ IPBES評価報告書を地域の視点で読み解く～」



IPBESネクサス評価 報告書からの主要 メッセージ

5 August 2025

齊藤 修

地球環境戦略研究機関(IGES)

・生物多様性と生態系サービス領域
プログラムディレクター

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム (IPBES)

- 2012年設立
- 生物多様性の保全と持続可能な利用，ひいては長期的な人間福利と持続可能な開発に貢献することが目的
- 先行するIPCCを手本としながらも，地域・伝統知の科学的評価への組み込み，先住民等の多様な主体の参画と能力形成など，より包摂的かつ多様なアプローチでの科学的評価が行われているのが特徴
- IPBESは，意思決定機関として全加盟国が参加する総会と，IPBESの管理運営を担ぶビューロー，IPBESの活動を科学・技術的な側面から支える学際的専門家パネル（MEP）で構成

IPBESの4つの機能

1. 政策担当者が必要とする重要な科学的情報を特定，優先順位をつけ，新たな知識生成を促進する機能
2. 地球規模および地域レベルの評価を定期的かつタイムリーに実施する機能
3. 政策の立案や実施を支援する機能
4. 科学と政策との連携の改善と関係者の能力養成の機能

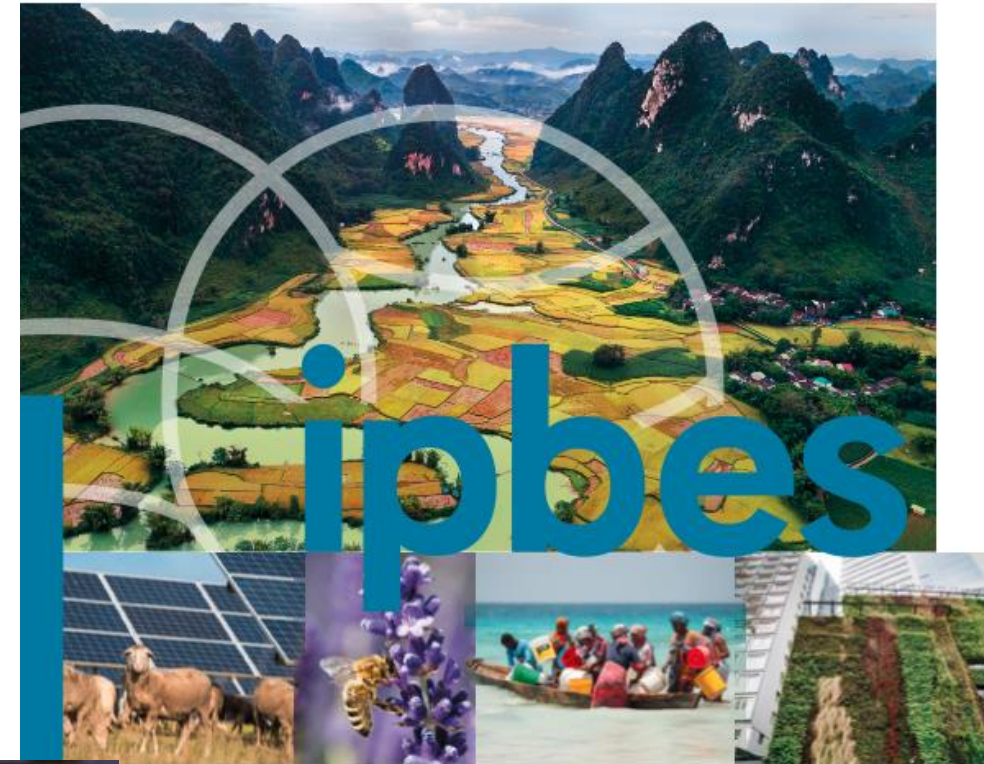
IPBESがこれまで発表してきた評価報告書

- 2016年：花粉媒介者，花粉媒介及び食料生産に関するテーマ別評価報告書（花粉媒介評価）
- 2016年：シナリオとモデルの方法論に関する評価報告書
- 2018年：土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書
- 2018年：生物多様性と生態系サービスに関する地域評価報告書（アフリカ地域，アメリカ地域，アジア・オセアニア地域，ヨーロッパ・中央アジア地域）
- 2019年：生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書（地球規模評価）
- 2020年：生物多様性とパンデミックに関するワークショップ報告書
- 2021年：生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC 合同ワークショップ報告書
- 2022年：野生種の持続可能な利用に関するテーマ別評価報告書
- 2022年：自然の多様な価値と価値評価の方法論に関する評価報告書
- 2023年：侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書
- 2024年：生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価書（ネクサス評価）
- 2024年：生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価（社会変革評価）

ネクサスアセスメント： 生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係 に関するテーマ別評価書



2024年ナミビアでの第11回
IPBES総会でのネクサスアセ
スメント採択時の写真



The thematic assessment report on
**THE INTERLINKAGES AMONG
BIODIVERSITY, WATER,
FOOD AND HEALTH**

SUMMARY FOR POLICYMAKERS



アセスメント・チーム

2 Co-chairs (共同議長)



Paula Harrison

UK Centre for Ecology & Hydrology, Lancaster, United Kingdom



Pam McElwee

Rutgers University, United States



27 Coordinating lead authors (CLA) 統括執筆責任者

110 Lead authors (LA) 代表執筆者

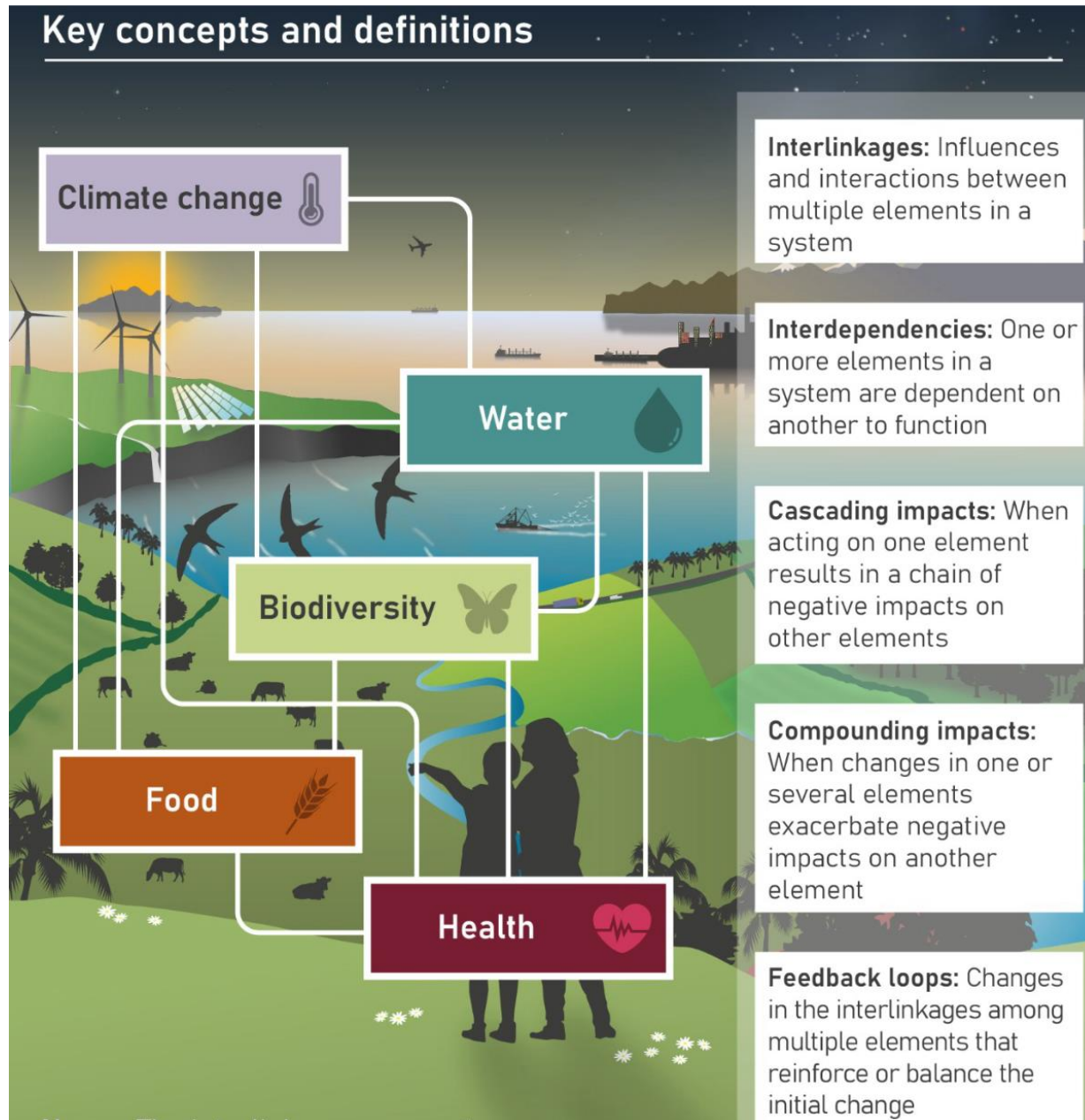
13 review editors 査読編集者

13 fellows フェロー

Over 70 Contributing authors 執筆協力

活動期間：2022年3月から2024年12月

生物多様性-水-食料-健康-気候変動の間のネクサス (相互連関)



Synergy: Enhancement of a desirable outcome in one element leads to enhancement of another element

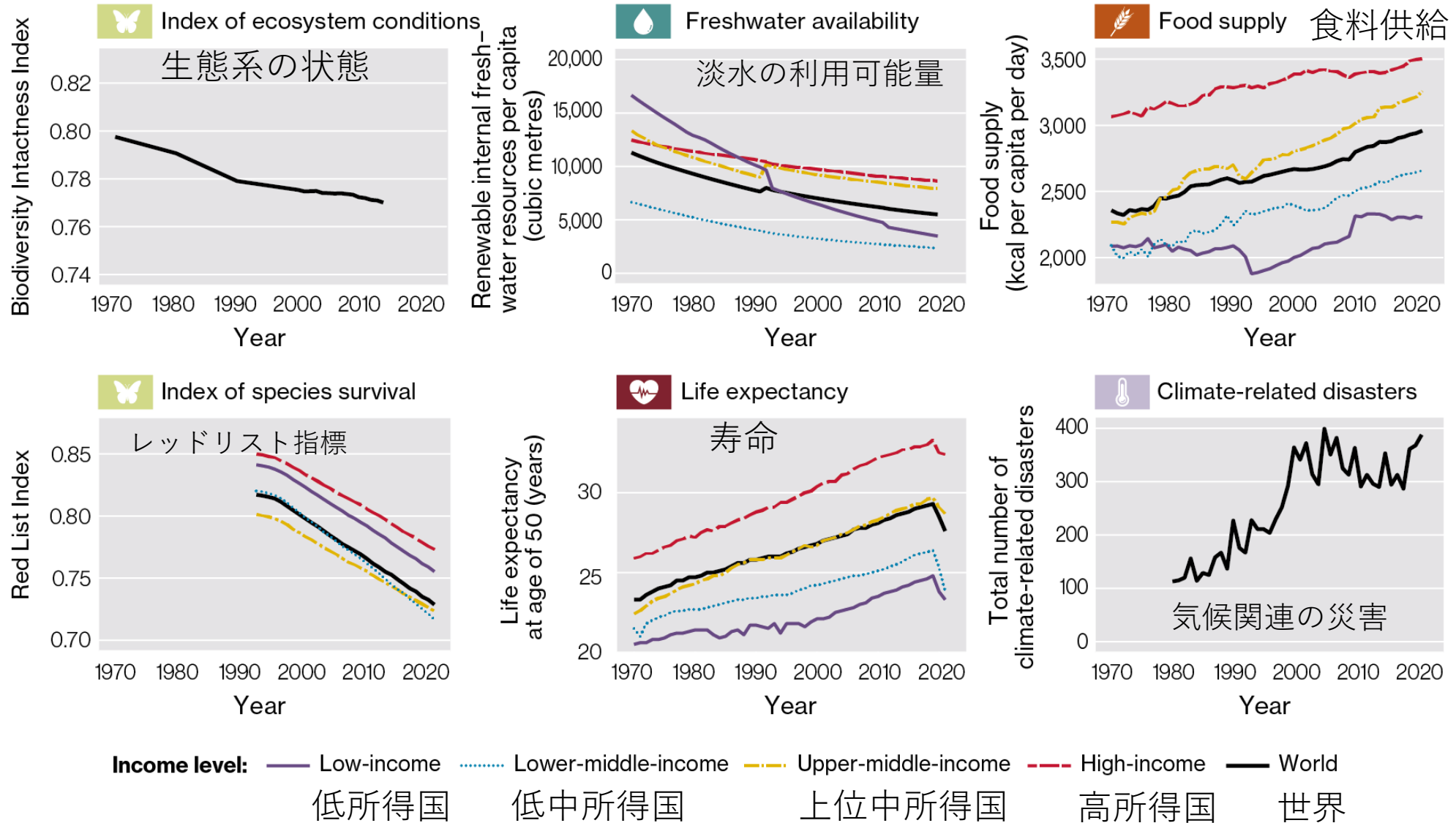
Trade-off: Enhancement of a desirable outcome in one element leads to deterioration of another element

- 生物多様性
- 水
- 食料
- 健康
- 気候変動

「ネクサス要素」
Nexus elements

ネクサス要素の指標例の過去50年の傾向

B EXAMPLES OF INDICATORS OF NEXUS ELEMENTS



ネクサス要素に関する直接要因と間接要因の2001年以降の傾向

A TRENDS IN INDIRECT DRIVERS AND THEIR IMPACTS ON TRENDS IN DIRECT DRIVERS

間接要因の指標		間接要因の傾向	直接要因へのインパクトの傾向				
			土地/海の 利用変化	持続的で ない利用	気候変動	汚染	侵略的外 来種
経済	GDP	↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑
	物質集約度	↓		↓	↓	↓	
	貿易	↑	↑↑	↑↑	↑	↑	↑↑
	貧困	↓	—	—	—		—
人口	人口	↗	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	
	都市化	↗	↑	↑	↑	↑	↑
制度	規制（環境）	↑	—	—	—	—	—
	武力紛争	↑	~	~	↑	↑	
文化	知識・リテラシー	↗					
	一人あたり消費	↗	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑
技術	再エネ(太陽・風)	↑	↑	↑↑	↓	~	
	ICTの利用	↑		↑↑	~	↑	↑

2001年以降の変化傾向

↑	> +3%
↗	0.3 to 3%
→	-0.3 to 0.3%
↘	-0.3 to -3%
↓	< -3%

間接要因による直接要因へのインパクトの強さ

↑↑	Intensification	高強度
↑	Modest intensification	
—	Stable/little impact	
↓	Small reduction	
↓↓	Large reduction	大幅減
~	Variable	様々

エビデンスのレベル

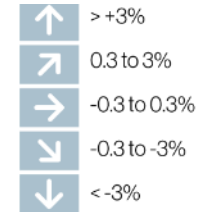
高	Well established
	Established but incomplete
	Unresolved
低	Inconclusive

間接要因の傾向とネクサス要素へのインパクト

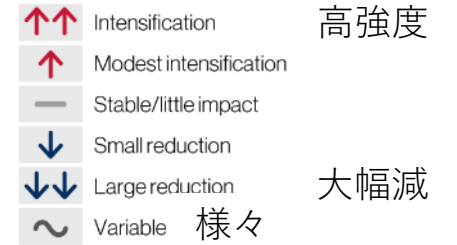
B TRENDS IN INDIRECT DRIVERS AND THEIR IMPACTS ON NEXUS ELEMENTS

間接要因の指標		間接要因の傾向	生物多様性		水		食料		健康		Direct driver 気候変動
			利用可能な量	水質	量	質	身体的	精神的			
経済	GDP	↑	↓	↓	↓	▲	▼	▼	▼	▼	↑↑
	物質集約度	↘	—	—	—	▲	—	—	—	—	↓
	貿易	↑	↓	▼	▼	▲	▼	▼	▼	▼	↑
人口	貧困	↓	—	~	—	~	~	~	~	~	—
	人口	↗	↓	▼	▼	▲	▼	▼	▼	▼	↑↑
	都市化	↗	▼	▼	▼	▲	~	▼	▼	▼	↑
制度	規制（環境）	↑	▲	▲	—	—	—	—	—	—	—
	武力紛争	↑	~	—	—	—	▼	▼	▼	▼	↑
文化	知識・リテラシー	↗	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一人あたり消費	↗	↓	▼	▼	▲	▼	▼	—	—	↑↑
技術	再エネ(太陽・風)	↑	▼	—	—	~	—	~	—	—	↓
	ICTの利用	↑	▼	—	—	—	—	—	—	—	~

2001年以降の変化傾向



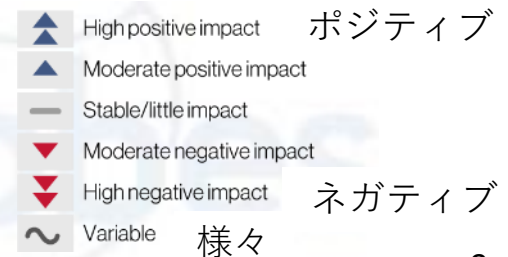
間接要因による直接要因へのインパクトの強さ



エビデンスのレベル

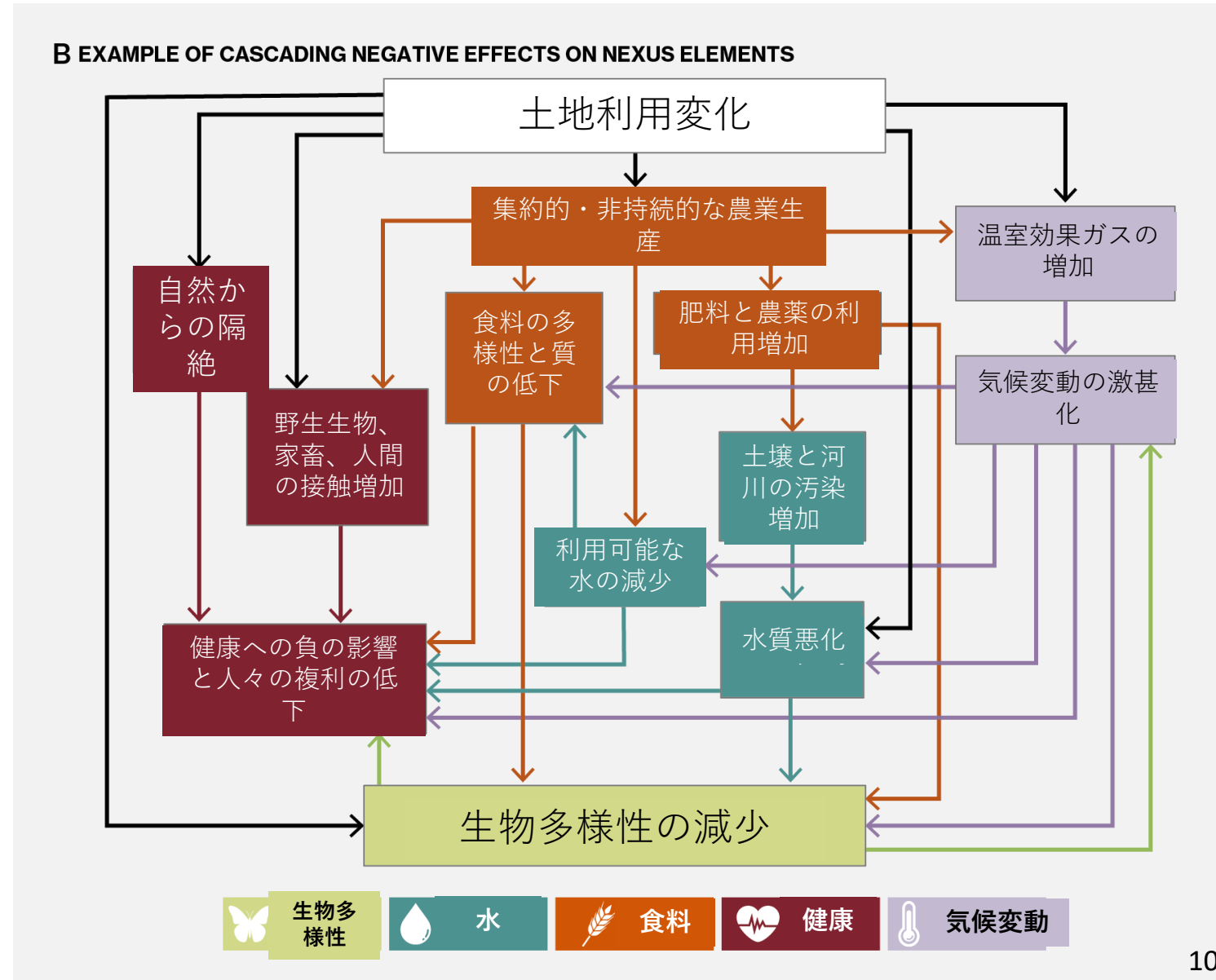


間接要因によるネクサス要素の傾向へのインパクトの強さ



生物多様性、気候、水、食料、健康の危機は相互作用し、連鎖し、複合し合っている

- 地球規模の危機は相互作用し、相互に悪化し、それらに対処するための個別の努力だけでは効果がなく、非生産的 (counterproductive)
- これらの危機への現在の取り組みは、縦割り化 (サイロ化) されており、根本的な原因にまで踏み込めておらず、孤立して機能しているため、これらの危機に対処することができていない



将来シナリオの6類型毎のネクサス要素への影響

52の研究文献から186の将来シナリオを抽出して6つの類型に整理

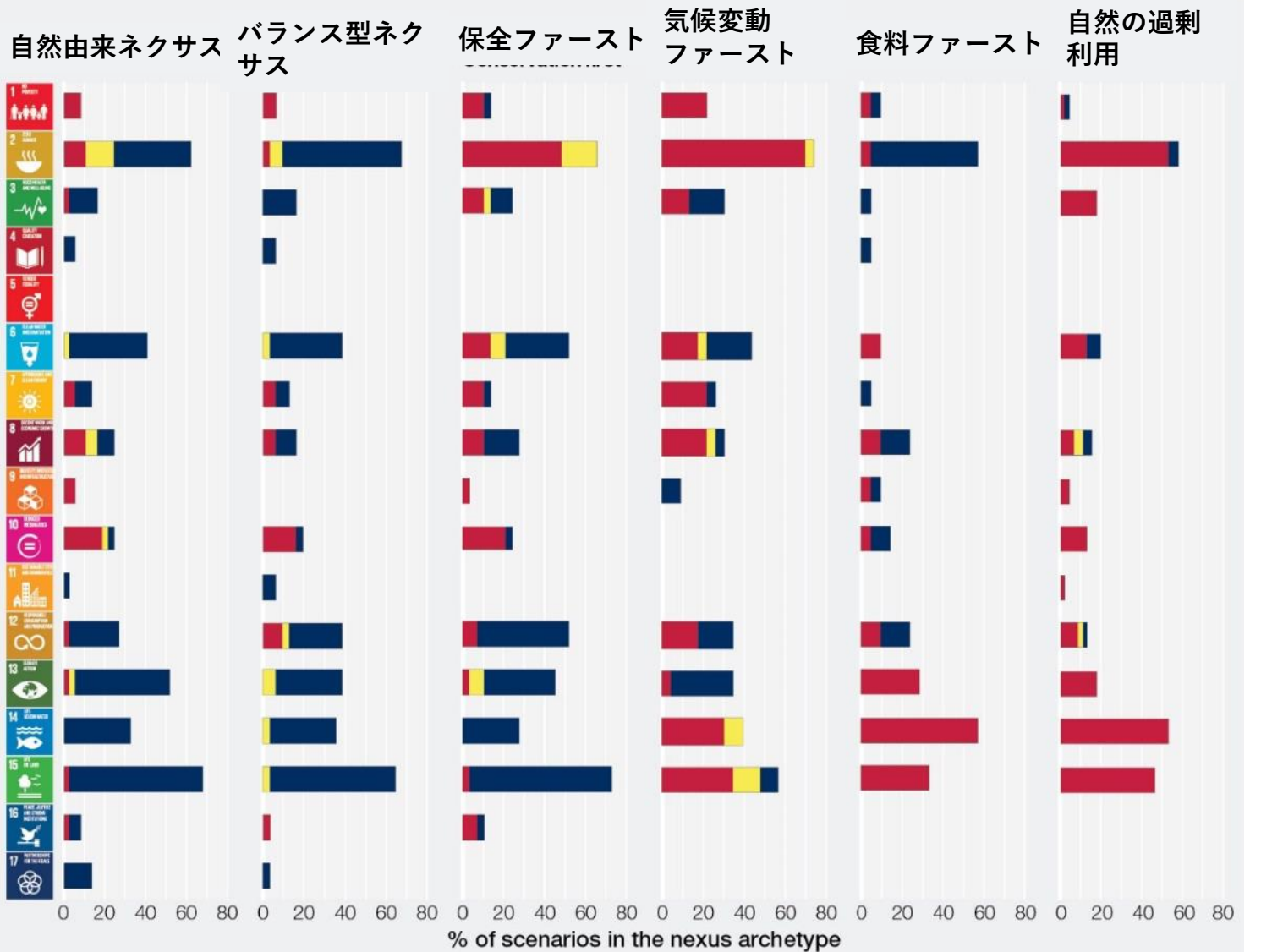
A PROJECTED FUTURE IMPACTS ON THE NEXUS ELEMENTS

Nexus archetype	Nexus element					Impacts on each nexus element under each nexus archetype
	生物多様性	水	食料	健康	気候変動	
1. 自然由来ネクサス	▲▲▲	▲▲	▲	▲	▲▲	▲▲▲ とてもポジティブ
2. バランス型ネクサス	▲	▲	▲▲	▲▲	▲	▲▲ 中程度ポジティブ
3. 保全ファースト	▲▲	～	▼▼	～	▲	▲ ややポジティブ
4. 気候変動ファースト	▼	～	▼▼	▲	▲▲	～ さまざま
5. 食料ファースト	▼▼	▼	▲▲	▲	▼▼	▼ ややネガティブ
6. 自然の過剰利用	▼▼	～	▼▼	▼	▼▼	▼▼ 中程度ネガティブ
						▼▼ とてもネガティブ

将来シナリオ類型毎のSDG

への影響

- ポジティブ
- ネガティブ
- ニュートラル



■ Positive ■ Negative ■ Neutral

The 17 Sustainable Development Goals

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 No poverty 2 Zero hunger 3 Good health and well-being 4 Quality education 5 Gender equality 6 Clean water and sanitation | <ul style="list-style-type: none"> 7 Affordable and clean energy 8 Decent work and economic growth 9 Industry, innovation and infrastructure 10 Reduced inequalities 11 Sustainable cities and communities 12 Responsible consumption and production | <ul style="list-style-type: none"> 13 Climate action 14 Life below water 15 Life on land 16 Peace, justice and strong institutions 17 Partnerships for the goals |
|---|--|---|

アセスメントレポートで評価された71の介入策(response options)

人間利用の土地と水域
における生態系管理

自然及び半自然
生態系の再生

健全性の高い生態系の
保全または改変停止

その他

ファイナンス
ング調整

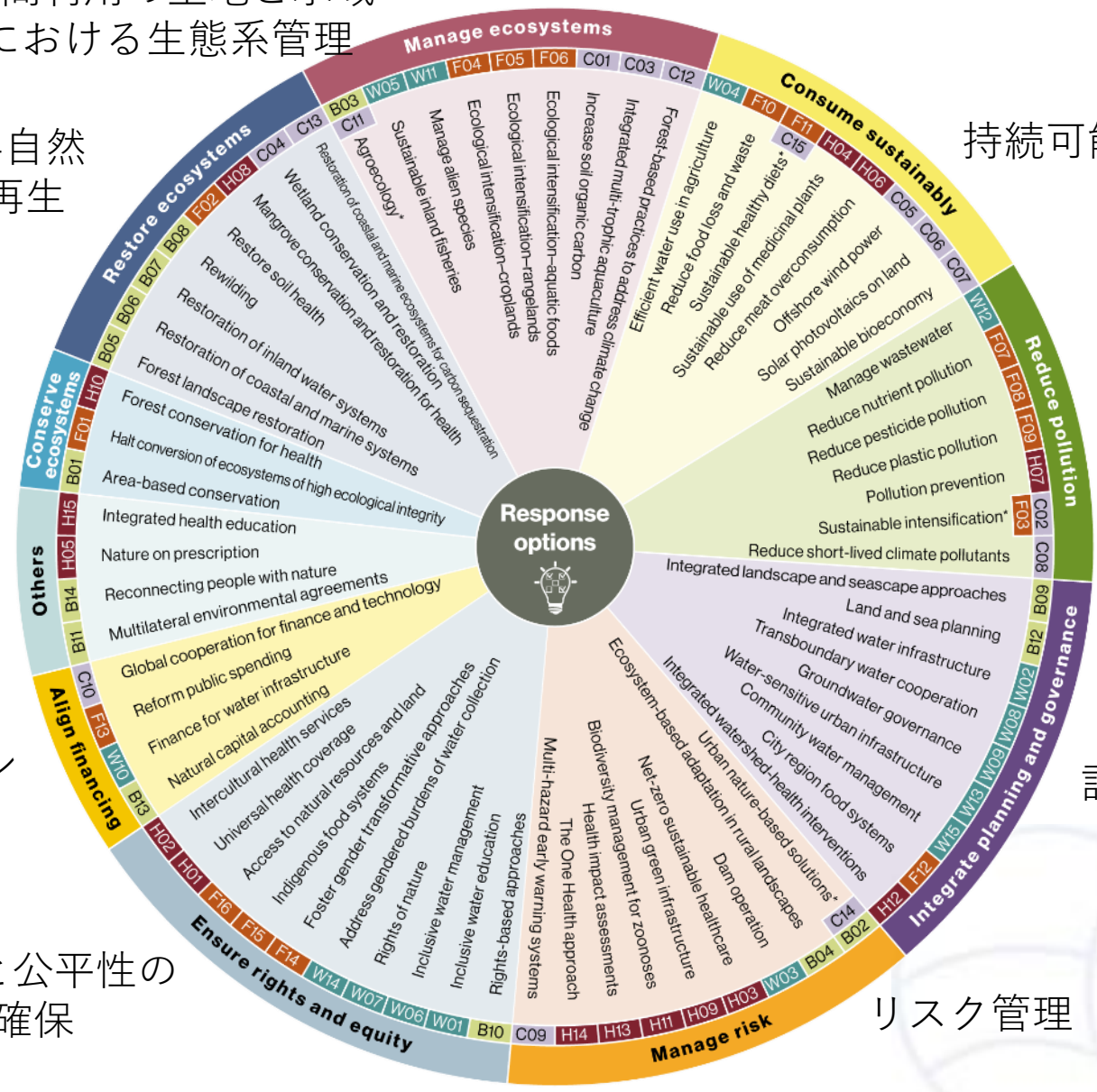
権利と公平性の
確保

持続可能な消費

汚染と廃棄物の削減

計画とガバナンスの
統合

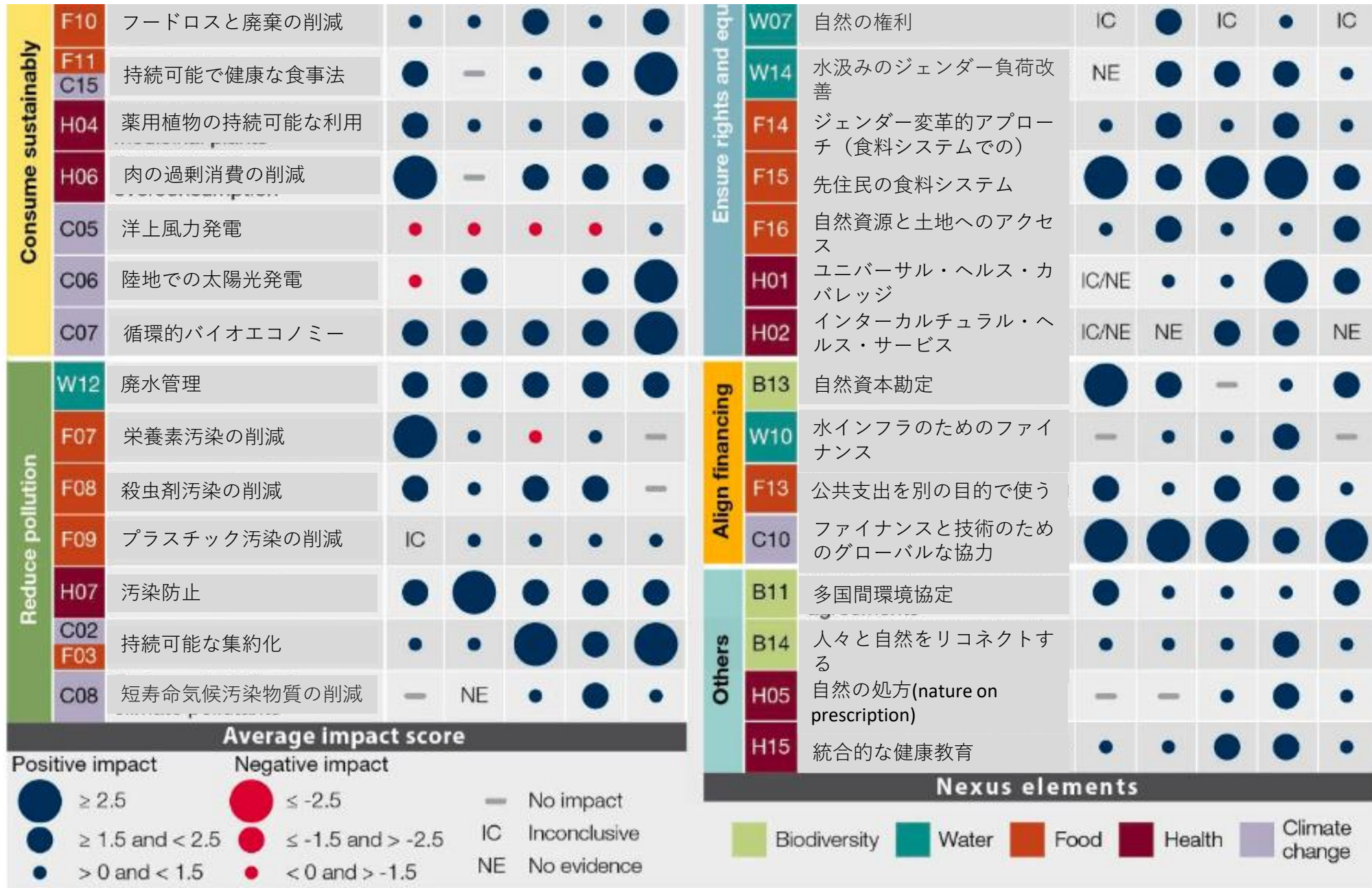
リスク管理



介入策毎のネクサス要素への効果（紺色：ポジティブ、赤：ネガティブ）

Response option		Butterfly	Water	Wheat	Heart	Thermometer	Response option		Butterfly	Water	Wheat	Heart	Thermometer		
Conserve ecosystems	B01	地域ベースの保全	●	●	●	●	Integrate planning and governance	B09	統合的なランドスケープ・シースケープアプローチ	●	●	●	●		
	F01	健全性の高い生態系の改変停止	●	●	●	●		B12	土地と海域の計画	●	●	●	●		
	H10	健康のための森林保全	●	●	●	●		W02	統合的な水インフラ	●	●	●	●		
Restore ecosystems	B05	森林ランドスケープの再生	●	●	●	●		W08	越境的な水資源協力	●	●	●	NE	●	
	B06	沿岸と海洋システムの再生	●	●	●	IC/NE		●	W09	地下水ガバナンス	●	●	●	●	
	B07	内水システムの再生	●	●	●	●		●	W13	水に配慮した都市インフラ	—	●	●	●	●
	B08	リワイルディング	●	●	●	●		●	W15	コミュニティによる水管理	●	●	●	●	●
	F02	土壌の健康の再生	●	●	●	●		●	F12	都市域食料システム	—	●	●	●	●
	H08	健康のためのマングローブの保全と再生	●	●	●	●		●	H12	統合的な流域-健康介入策	●	●	●	●	●
	C04	湿地の保全と再生	●	●	●	—		●	Manage risk	B02	都市における自然を活かした解決策(NbS)	●	●	●	●
C13	ブルーカーボン生態系再生	●	●	●	●	●		C14		地方のランドスケープでの生態系に基づく適応	●	●	●	●	●
system functions	B03	アグロエコロジー（農業生態学）	●	●	●	●		●		B04	地方のランドスケープでの生態系に基づく適応	●	●	●	●
	C11	アグロエコロジー（農業生態学）	●	●	●	●	●	W03		ダムの運用	—	●	●	●	●
	W05	持続可能な内水面漁業	●	●	●	●	●	H03		ネットゼロ持続可能なヘルスケア	●	●	●	●	●
	W11	外来種管理	●	●	●	●	●	H09		都市のグリーンインフラ	●	●	●	●	●
	F04	生態学的集約化 - 耕作地	●	●	●	●	●	H11	人獣共通感染症のための生物多様性管理	●	●	●	●	●	
F05	生態学的集約化 - 放牧地	●	●	●	●	●	H13	健康影響評価	●	●	●	●	●		

(出所)IPBES. 2024. Nexus Assessment Report SPM. (<https://bit.ly/NexusSPM>) Figure SPM.8を基に齊藤が一部和訳して作成



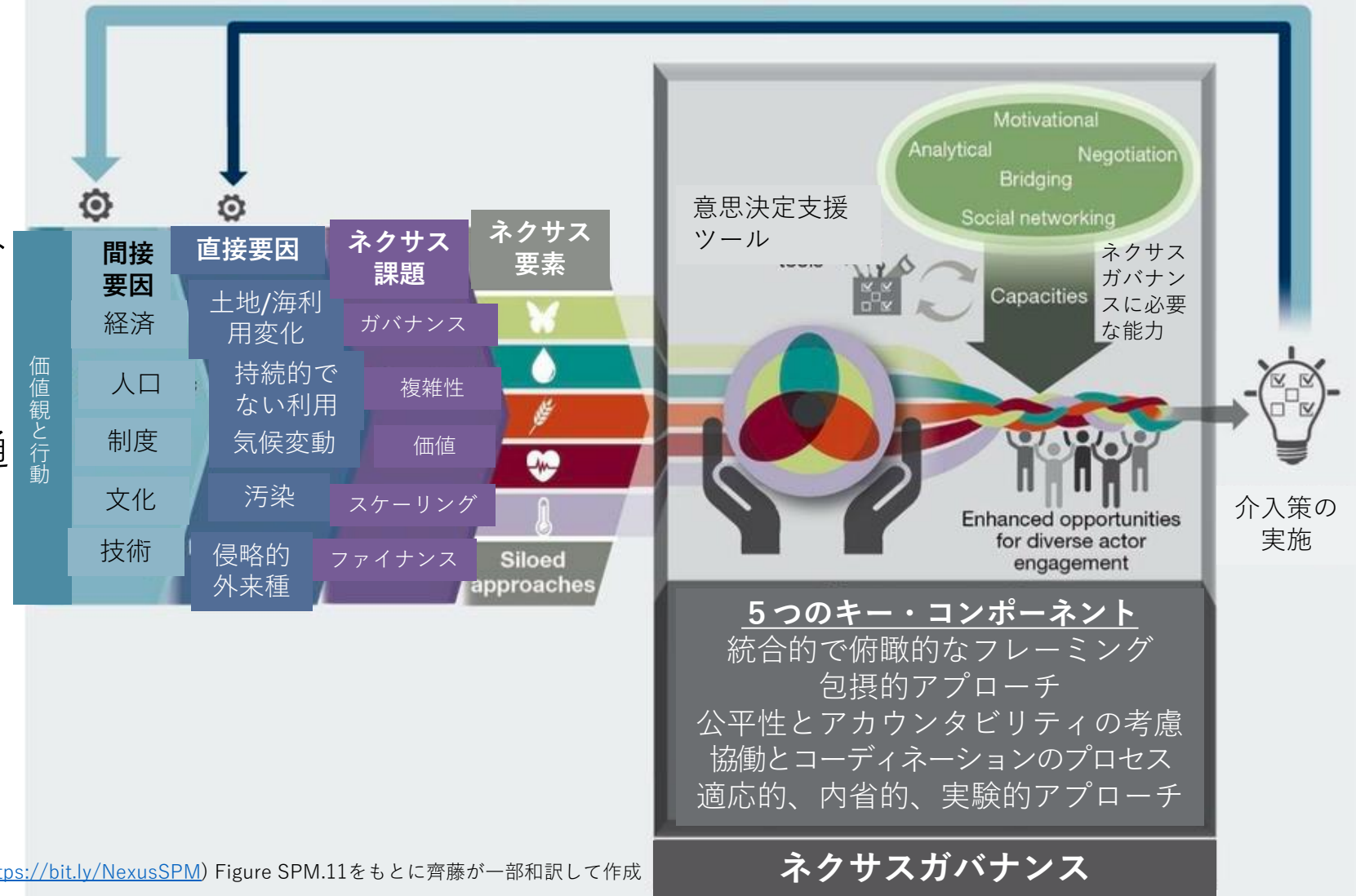
(出所)IPBES. 2024. Nexus Assessment Report SPM. (<https://bit.ly/NexusSPM>) Figure SPM.8を基に齊藤が一部和訳して作成



Figure SPM.11
ネクサスガバナンスの概念図

ネクサスガバナンスを再定義

「ネクサスの課題に対処し、政策的及び社会政治的選択肢を特定し、それらの実施を管理するための水平的(例えば、様々なネクサス要素及び関連セクター全体にわたる)および垂直的(例えば、クロススケールの連結性または多層的ガバナンス)経路を通じて複数のアクターの関与を強化する調整構造及びプロセスの開発と運用」



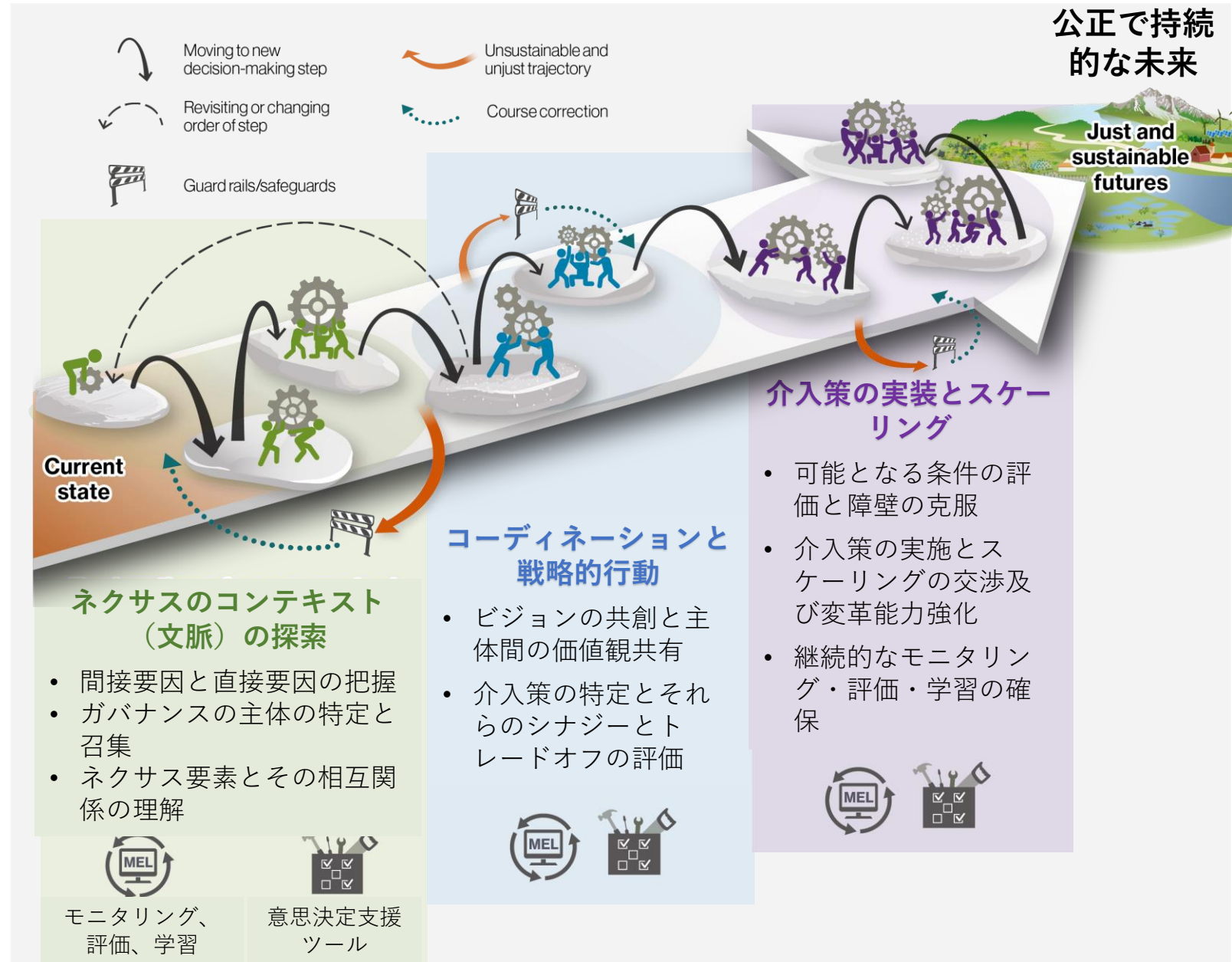
ネクサスガバナンスを社会実装するためのロードマップ

8つのステップを3つのクラスターに整理

- ネクサスのコンテキスト（文脈）の探索
- ネクサスガバナンスアプローチを使用して問題に対処するためのコーディネーションと戦略的行動
- 介入策の実装とスケーリング

各過程で利用可能な意思決定支援ツールも解説

ロードマップに沿った各ステップは重要だが、意思決定プロセスを前進させるステップを示す黒い矢印や、ステップを再検討したり、異なる順序で実装したりする必要がある場所を示す灰色の破線の矢印が示すように、必ずしも連続的または直線的である必要はない



ネクサスアセスメントのまとめ

- 相互に関連する危機に対処するためには、迅速なアクションが必要。
- ネクサスアセスメント評価書は、生物多様性、水、食料、健康、気候変動の相互関連性について、意思決定者に入手可能な最良の**エビデンス**を提供。
- 公正で持続可能な未来に向けて、全てのネクサス要素にポジティブなインパクトをもたらす将来シナリオもあるが、**特定の要素ファーストのシナリオでは他の要素にネガティブな影響**が生じうる。
- 現在、危機に共に取り組むための**幅広い介入策**が利用可能。
- 意思決定者が統合された意思決定と行動の策定支援のため、生物多様性、水、食料、健康、気候変動の相互関連性に関するエビデンスとツールが利用可能。
- この報告書は、地球規模の危機や課題に対処し、人々と自然にとってより公正で持続可能な成果を確保するための**羅針盤としてネクサスガバナンス**を定義し、さまざまな主体が果たす役割と必要となる能力を提示。
- 今後の多国間協定(SDGs、世界生物多様性枠組み (KM-GBF)、パリ協定など)を支援するためのより統合された決定と行動に情報を提供。



